

## 第一回ショートハンドチャレンジ1・2・3

2016.6.11 ハヤテレポート 文責 東山 晃

元々初島ダブルハンドレースの練習で自分はただ乗ってるだけで総監督のつもりでエントリーしました。きっとそんなチームが多いはずだからトリプルハンドクラスは少数派と考えていました。ところがエントリー状況を見て、自分乗らなきゃダブルハンドで入賞かあ。失敗したなと思いました。と同時に学連現役艇とトリプルハンドでガチンコ状況。一転負けられない戦いがここにありました。朝一番最も気になるアランフェスの状況をチェック。表面的には大人の対応をするもののレース中は、一秒でも1cmでも先に行かせてなるものかと心に誓いました。学連の選手権シリーズレースを学生だけで企画運営できただけあって多少余裕のレース準備はできていたようです。ショートハンドレースというものの学生選手権もフルメンバー4人で出ているので、何気にアランフェスはベストメンバーです。AYCに戻り先ずは艀装から大汗デス。3人で全てを行うのは以外と大変でした。近年フォアステーの調整を風力に合わせてチューニングしますが、一人作業で汗びっしょりデス。これも練習のためなるべくお二人で。ハヤテは戦術的にジェネカーとスピンの使用をレーティング取得の際に決めております。ORCはオフショアを意識してジェネカーあり、IRCは上下レースを想定してジェネカーなし。本日は両方行けます。即ち両方の艀装が必要です。こっそり隠してのせたバトワイザーに何度も手が出そうですがここは、忍です。レース海面に早めに行き早めのエントリー。スタート位置とコースをブリーフィング。最初の問題は、バウに人が行ってスタートするかしないかです。トリプルハンドでは、スタートラインをバウマンが見ることも可能です。いつものようにラインと見通しをバウマンがチェックこれで、バウマンありスタートバウマン無しスタートどちらも対応可能です。スタートのイメージはバッチリです。直前にバウマン無しのスタートに決めました。あくまでも今日はダブルハンドプラス何もしない僕。ここ数レーススタートが



冴えています。なんと今日は、師匠シャークを後ろに見てのスタートです。数年に一度の快挙です。横山先生の前を一瞬でも走れることにこんなにも喜びを感じるんでね。下から抜かれるか上から抜かれるか緊張の時間です。結局はレース中はシャークの走りを見ながら猛追です。南西沖ブイいつも回っているブイですが今シーズン初の回航です。前方に見える位置でシャークの回航を見れることも少ないのですが、あらまー小さく回られるのですね。真似して小さく回りたい衝動を抑えてハヤテは安全第一で大きく回りました。

ここから、VITE 31 マストヘッドスピンと SEAM 31 ジェネカーのスピード勝負です。ヘルムスマンとトリマーは、喉が渇き水分を要求してきましたので、ポカリスエットと麦茶を出したところでお伺いです。私だけ違うものを飲んでもいいですか？案の定お返事がありません。フィニッシュラインまでバドワイザーはお預けです。いい位置でフィニッシュしたので結果がすごく待ちどろしい表彰式です。クラス優勝は間違いないので問題は総合成績です。結果クラス優勝。総合準優勝、本当に素晴らしい結果でした。いろいろ考えるところがありますが、アクションの少ないレースでは練習不足を補うだけの艇速があり、上位入賞が狙える。細かいチューニングとトリムで逆転も可能。とにかく少しでも前にいることが重要。

本当に楽しいレース企画ありがとうございました。また来年よろしくお願ひします。



左から東山（のってただけ）牧（ヘルムスマン）貝塚（バウ&トリマー）